

今や男性の3人に2人、女性の2人に1人ががんになります。特に男性は50歳を過ぎてから急激に発がんリスクが高まりますから、定年を迎えてこれから人生を楽しもうといふ矢先に、この病気で命を落とす人が後を絶ちません。働く世代の死因の半分以上、病死に限れば9割をがんが占めています。がんを増やす最大の原因は細胞の老化ですから、定年の延長はさうにこの割合を高めるはずです。

そして、がんという病気はわずかな知識があるかどうかで運命が大きく分かれてしまふ病気です。とりわけ、自分自身の発がんリスクを知つておくことが大事です。

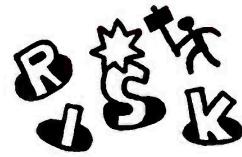
例えば、胃がんの原因の98

%程度がピロリ菌です。胃の中でも生きられるこの細菌は、免疫力が完成していない病児期に感染し、慢性の炎症を起こすことで胃がんの原因となります。何らかの機会

で検査を受けられます。子宮頸(けい)がんも、発症原因のほぼ100%が性交渉に伴うヒトピローマウイルスの感染です。性経験のない女性にはほとんどリスクはないこ

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

肝臓がんの原因の8~9割がB型またはC型の肝炎ウィルスで、保健所に行けば無料で検査が受けられます。子宮頸(けい)がんも、発症原因のほぼ100%が性交渉に伴うヒトピローマウイルスの感染です。性経験のない女性にはほとんどリスクはないこ

とになります。
乳がんの発症率を高めるの年に一度のマンモグラフィーを欠かさないことが大切でしょう。前回、O型以外の血液型の人は脾臓(すいぞう)がんのリスクが高まると書きましたが、血液型以上に脾臓がんにはほとんどリスクはないこ

とになります。

乳がんの発症率を高めるの

年に一度のマンモグラフィー

を欠かさないことが大切です。肝臓がんはなんと2倍、がん全体でみて2割も増えます。糖尿病になると脾臓がん予備軍だと覚悟し、検査を中心かけるべきだと思います。

喫煙や毎日3合以上の大量

飲酒はがんを6割も増やしま

す。リスクを知るどころか、

上がりますから、出産経験が

ある期間は乳がんのリスクが

上りますから、出産経験が

なく、生理が長く続く女性は

リスクが高まります。こうし

た方は毎月の自己触診と、2

(東京大学病院准教授)

自らリスクを高めることにな

りますから、くれぐれもご用心。

に血液検査などでピロリ菌感染の有無を確かめておくとともに、除菌をしないでよい。なお、除菌をしてても慢性胃炎の履歴は抹消できませんから、胃がんのリスクは残るといえます。

は女性ホルモンです。月経の

ある期間は乳がんのリスクが

上りますから、出産経験が

なく、生理が長く続く女性は

リスクが高まります。こうし

た方は毎月の自己触診と、2

(東京大学病院准教授)